

〔 横浜市大佛次郎記念館 〕
 令和 5 年度業務報告及び収支決算
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市大佛次郎記念館
所在地	横浜市中区山下町 113
構造・規模	鉄筋コンクリート造地上 2 階地下 2 階建
敷地・延床面積	延床面積 1,108.39 m ² (本館：709.64 m ² 、新館：398.75 m ²)
開館日	昭和 53 年 5 月 1 日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2
代表者	理事長 近藤 誠一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成 28 年 4 月 1 日 (昭和 53 年 財団法人大佛次郎記念会管理運営開始)

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針の総括

令和 5 年度は、大佛次郎没後 50 年の記念の年であり、未発表資料の刊行、没後 50 年記念事業の実施により、多様な切り口、多様な手段で大佛作品と大佛次郎の生き方を発信し、読書や創作活動を中心とする文化活動の活性化を促進しました。

約 30 年ぶりとなる未発表資料の刊行は、大佛次郎という作家の現代にも通じる視点を伝え、その魅力に光をあて、広く発信することとなりました。

市内外の施設や団体と連携して実施した没後 50 年記念事業は、当館単独では実現できない多彩な事業展開により、多くの市民が作家・作品に触れる機会をつくりました。

調査研究の基幹となるものとして準備をすすめてきた所蔵資料のデジタルアーカイブは、令和 6 年度の公開にむけて分類整理、データ流し込み、精査確認を行いました。

(2) 令和5年度の業務の方針の総括

ア 全体について

令和5年度は、大佛次郎没後50年の記念の年であり、記念出版並びに特別展示を行いました。また通年で市内外の団体、文化施設等と連携し、記念事業を実施しました。

特別展示およびテーマ展示は、漫画作品を取り上げたテーマ展示Ⅰ、新刊発行を記念した特別展示、愛猫家としてのエピソードも紹介するテーマ展示Ⅱと、広い切り口で、作品を読んだことのない層を含む幅広い対象に満足度の高い展示をつくりました。またホームページリニューアルを行い、発信力と利用者の利便性を高めました。

新デジタルアーカイブ構築は、年度中にデータ移行を完了し、令和6年度の公開に向けて着実に準備を進めました。

管理面では、設備の故障や不具合により修繕の多い一年となりました。来館者の安全・快適を優先し、予防措置も含め、早急に対応しました。

イ 使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

- 令和6年度のデジタルアーカイブ公開に向け、分類体系化を進めました。令和5年度中に既存データの流し込みを完了し、精査を行いました。
- 令和6年度のデジタルアーカイブ公開、テーマ展示Ⅰでの活用を想定し、所蔵のポール・ルヌアール版画6点の修復を行いました。

ウ 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

- 「南方ノート・戦後日記」（未知谷刊行 大佛次郎記念館 編）は、2023年8月に刊行されました。各紙で取り上げられるなど話題となりました。
- 年3本の展示は漫画作品とのコラボレーション、出版特別展示、挿絵画家木村荘八との交流、愛猫家側面にも注目した展示と、「大佛次郎を知らない人が見ても楽しめるもの」「作品を掘り下げ、検証するもの」をバランスよく実施しました。
- 没後50年記念事業は、ホテルや図書館、市民団体、文化施設等、市内外の様々な場所・団体と連携した事業を実施し、内容も展示、講演会、映画上映、ゆかりの場所へのツアー、落語会等多彩であり、大佛次郎の魅力を広く発信する機会となりました。

エ 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

- 鎌倉市鏑木清方記念美術館との連携により、大佛次郎と鏑木清方のゆかりの地を、両館の学芸員・研究員が解説する鎌倉ガイドツアーを実施し、参加者の声やアンケートから満足度の高い事業となりました。また大佛と鏑木の文章から感想画を書く日本画体験ワークショップは、鏑木清方記念美術館の学芸員が講師となり実施するなど、専門施設同士の連携を活かしたものとなりました。
- 「大佛次郎×ねこ写真展」は新たな工夫として、ミナトノアート実行委員会との共催により「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」を開催し、猫好きの方々の来館を推進しました。
- ビブリオバトルはこれまでの当館の取組が評価され、ビブリオバトル普及委員会 Bibliobattle of the Year 2023 の「特別賞」を受賞しました。

オ 使命4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

- ・ 和室・会議室ともに目標利用率を上回り、指定管理第1期（2016年～）以降、最も高い利用料金収入を得ることができました。句会、お茶会、朗読会、瞑想等の利用の他、全館を長期で利用する茶道関連の展示など、新規利用が入りました。
- ・ 利用者意見交換会の準備・日程調整を行いました。（2024年4月11日 ZOOM開催。3団体参加）
- ・ 利用者が活動を紹介できるチラシラックを受付横に設置しました。

カ 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

- ・ 没後50年記念により、外部連携事業の多い1年となりました。神奈川近代文学館とは、没後50年連携事業として「大佛次郎展－戦後の仕事－（コーナー展示）」の開催、夏の「昭和の遊び」展での記念館所蔵資料の活用など、連携を行いました。
- ・ 鏑木清方記念美術館とは、使命3で記載した、文学散歩、日本画ワークショップの連携の他、入館料の相互割引を実施しました。また山口蓬春記念館とは、特別展「山口蓬春と藤田嗣治」内において「大佛次郎と藤田嗣治」の展示コーナーを設けました。なお、この連携をきっかけに令和6年度のテーマ展示において、両施設で同時期に「大佛次郎と山口蓬春（仮称）」展の開催を予定しています。
- ・ 「ミナトノアート2023」内のプログラム「ミナトノネコ」では作家と猫について、講演を行いました。また「ヨルノヨ2023アートプログラム「水の町プロムナード」内のトークイベント「獅子文六と大佛次郎の散歩した水町通りの歴史と文化」では、横浜開港資料館副館長、神奈川近代文学館学芸員とともに当館研究室職員が登壇しました。
- ・ 大佛次郎記念館で令和4年度に寄贈を受けた、松野一夫の雑誌「宝石」の表紙原画、「苦楽」の挿絵原画を北九州市立美術館に貸出、展示活用されました。
- ・ 街との連携では、新型コロナウイルス蔓延以降、参加を見合わせていた山手西洋館を巡る「横浜山手ハロウィンウォーク」に参加し、多くの来場がありました。

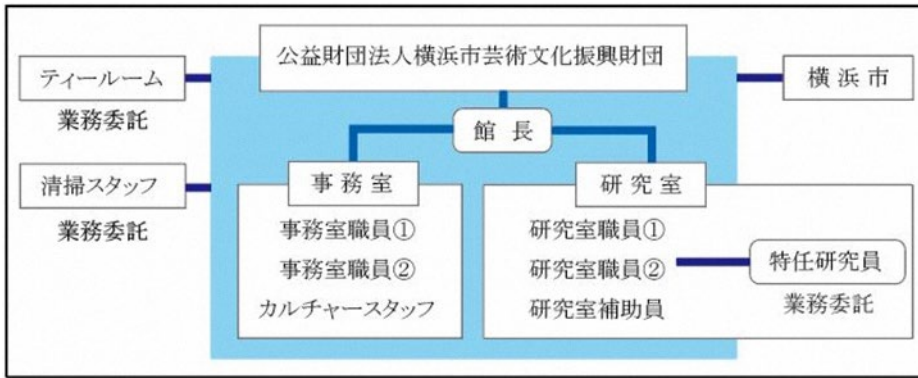
キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

設備の故障や不具合により修繕対応の多い一年となりました。特別展の展示作業中に発生した展示ケース内の照明トラブルにより会期変更を行い、対応しました。その他の設備的トラブルにおいても来館者の安全・快適を優先し、予防措置も含め、早急に対応しました。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

- ・ 新型コロナウイルスの5類への移行後も消毒液設置、受付アクリル板の設置、スタッフのマスク着用は継続しました。

4 運営組織の構造、人員配置の総括



組織図のとおり職員、臨時職員を配置し、カルチャースタッフは常時1名配置しました。

5 令和5年度の業務の取組の総括

I 文化事業

(1) 文化事業

令和5年度は大佛次郎没後50年の記念事業を通じて、大佛作品と作家の生き方を発信し、読書や創作活動を中心とした文化活動の活性化に取り組みました。約30年ぶりとなる未発表資料の刊行は、大佛次郎という作家の現代にも通じる視点を伝え、その魅力に光をあて、広く発信することとなりました。また市内外の15以上の施設や団体と連携して通年で実施した没後50年記念事業は、当館単独では実現できない多彩な事業展開により、多くの市民が作家・作品に触れる機会をつくりました。

また横浜のアートフェスティバル「ミナトノアート」、「ヨルノヨ」のアートプログラムに研究室職員が登壇者として参加し、研究発表の機会を得ました。

本指定期間から整備を始めたデジタルアーカイブは、令和6年度の公開を目指し、データの分類と体系化を終え、移行データの精査を行いました。また記念館ホームページリニューアルを実施し、利用者の利便性を高めました。

(2) 施設運営

- ・ 和室・会議室ともに目標利用率を上回り、利用料金収入も目標を上回りました。全館を長期で利用するお茶関連の展示など、新規利用が入りました。
- ・ 利用者のニーズや課題など現状把握を目的とした意見交換会の日程調整および準備を行いました。
- ・ 利用者が活動を紹介できるチラシラックを受付横に設置しました。

(3) 施設管理

- ・ 令和5年度は、設備不具合による小破修繕の多い年となり、修繕予算の消化率は約270%となりました。
- ・ 夏の展示替期間に、展示ケース内の蛍光灯安定器の老朽化によるトラブル生じたため、2F展示室および1F和室の蛍光灯からLEDへの更新しました。その他の設備トラブルにも早急に対応し、利用者の利便性を確保しました。
- ・ 横浜市発注の工事により、分電盤が更新されました。
- ・ 防災訓練は10月と1月の2回開催しました。10月の訓練では消防設備管理会社立ち合い

のもと、火災発生時の火災報知器の状態や防火戸の状態を実際に体験しました。1月の訓練では中消防署北方出張所立ち合いのもと、通報訓練、避難誘導訓練、救急救命（AED）訓練、水消火器による消火訓練を行いました。

（４）収支

利用料金収入、事業収入、ショップ収入が伸びており、利用料金収入は、指定管理者制度導入後、最高額となりました。また事業収入は主に入館料による収入であり、昨年度に比較して大きく伸びました。没後50年の記念年であり、メディア等で取り上げていただいた効果が考えられます。令和5年度決算では、利用料金、事業収入、ショップ収入ともに、新型コロナウイルス感染症蔓延前の水準に回復しています。

（５）各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和5年度は、第二期指定管理期間2年目にあたり、提案書の内容を具体化させ、前進させました。

（６）その他

関係法令の遵守や個人情報保護に施設全体で取り組み、事故を防止しました。

各種研修を行い、スタッフの意識向上とモチベーションアップにつなげました。

6 使命の指標の達成状況

（１）使命1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	研究成果物の発表回数	刊行物 編集	刊行物 1冊	刊行物 1冊	—	—	刊行物 累計3 冊	—
2 ★	資料調査の対象カテゴリーの 数	2カテ ゴリー	—	新DB移 行のた め現行 システ ムへは 追加無	—	—	5カテ ゴリー /5年	—
3 ★	温湿度点検と 保存環境点検 の回数、特別 資料整理の期 間	温湿度点検	2回/ 日	2回/ 日	2回/ 日	—	—	2回/ 1日
		保存環境点検	1日/ 1か月	1日/ 1か月	1日/ 1か月			1日/ 1か月
		特別資料整理 の期間	1週間 /年	出版のた め期間設 けず	出版のた め期間設 けず			1週間 /年
4 ★	特別資料調査期間の結果を、新 デジタルアーカイブに流し込 む点数	準備	準備	301		—	130点 (猫コ レクシ ョン)	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	収蔵作品の状況把握	R 4 実績	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認実施
		R 5 達成指標	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認
		R 5 実績	・R5 は没後 50 年のため特別資料整理期間は設けず。 ・ポール・ルヌアール版画 6 点の修復実施 ・日常的な資料の状態確認実施。
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	優先度に応じた資料修復
		R 8 実績	—
2	研究成果物の読者の声	R 4 実績	刊行に向けた準備
		R 5 達成指標	『日記』刊行時WEBアンケート実施
		R 5 実績	・記念館販売分は書籍に差込の WEB アンケートの実施（※1） ・出版社販売分は読者カードの差込
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	WEBアンケート検証
		R 8 実績	—
3 ★	新デジタルアーカイブの HP での閲覧・検索機能の構築	R 4 実績	新デジタルアーカイブデータ移行準備
		R 5 達成指標	新デジタルアーカイブに画像データを加える
		R 5 実績	画像データ 301 件追加（非公開分含む）
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	HPで閲覧・検索ができる
		R 8 実績	—

（※1）WEB アンケートに寄せられた声として、「貴重な資料ということにとどまらず、作家の目線、肉声を読み取れた。」「戦地の切迫感が薄いのが逆に現実味がある」などがありました。

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組む事項

全収蔵資料の分類・体系化、データの振り分けや加工、データの精査など、施設全体で取り組みました。令和 6 年度のデジタルアーカイブ公開に向け、令和 4 年度の特別資料整理期間でデジタル化したポール・ルヌアール版画を先行公開し、テーマ展示のトピックとしました。

(2) 使命2 大佛次郎の業績を広く普及する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	自主事業の来館者数 (観覧者数)	15,656	没後50年 21,000 人/年	18,432	—	—	18,500 人/年	—
2	来館者(参加者)の満足度(アンケート調査)/5点満点(※2)	4.7	満足度 平均 4.4以上	4.7			満足度 平均 4.4以上	
3 ★	レファレンス内容をWEBで紹介する件数	3件/ 年	3件/ 年	3件/ 年			3件/ 年	
4 ★	既存データを引き継ぎ、新デジタルアーカイブで公開する カテゴリーの数(2023年～)	準備	—	準備			10件/ 4年	

(※2) 使命2の「大佛次郎に関する展示公開」の主旨に則って、テーマ展示および特別展示において収集したアンケートの満足度

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者の声	R 4 実績	聞き取りアンケートの実施準備
		R 5 達成指標	聞き取りアンケートの実施
		R 5 実績	聞き取りアンケートの実施 (※3)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者の声の反映
		R 8 実績	—
2 ★	大佛次郎の今日的意義を作品や生き方を現代の視点から捉え直し文学館活動を通じて伝える (提案書様式9、2ページより抜粋)	R 4 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 5 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義(※4)を伝える
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える
		R 8 実績	—

(※3) 3/7～16 来館者への個別の聞き取り実施。主な意見として、「大佛次郎の作品ごとにテーマを設定

した展示がみたい」「大佛次郎は知らなかったが、今回のように猫関連の展示があればまた来たい」「展示が場所にとっても合っている」など。

(※4) 令和5年度の展示であれば、作家活動の転機となった戦中の「南方体験」や敗戦直後の日本で何を見て感じたか。その他、作品やエッセイから感じられる自分の目で見、気づき・発見し、想像することの大切さ。現代にもつながるナショナルトラスト運動提唱や行動など。

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

令和5年度の特別展示およびテーマ展示は、漫画作品を取り上げたテーマ展示Ⅰ、書籍刊行を記念した特別展示、愛猫家としてのエピソードも紹介するテーマ展示Ⅱと、様々な切り口で作家と作品を紹介し、成果を得ました。多くの人々の関心を高めご来館いただけるものとともに、文学館として調査・研究成果を発信できる展示の両面から展示を企画していきます。

今後、「鞍馬天狗誕生100年」、2025年「野尻抱影生誕140年」、2028年開館50周年と記念の年が続きます。令和5年度の経験からも記念年は発信の好機となるため、多彩な角度から展示を検討していきます。

(3) 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	各種文化事業の実施回数	22回/ 年	16回/ 年	42	—	—	17回/ 年	—
2	来館者(参加者)の満足度 /5点満点(※5)	4.2	満足度 平均 4.5以上	4.1	—	—	満足度 平均 4.5以上	—
3 ★	新規イベント実施回数	3回	—	4回	—	—	累計5 回以上	—

(※5) 使命3の「幅広い市民が文学に関する機会提供」の主旨に則って、展示以外の文化事業において収集したアンケートの満足度

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	来館者(参加者)の声	R4実績	聞き取り調査の実施に向けた準備
		R5達成指標	聞き取り調査の実施
		R5実績	聞き取り調査の実施(※6)
		R6実績	—
		R7実績	—
		R8達成指標	聞き取り調査内容の反映
		R8実績	—
2	継続事業の工	R4実績	「大佛次郎×ねこ写真展2023」は、近隣ねこ展示関係と連携し、「猫聖地めぐり」を案内

★	夫	R 5 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 5 実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2024」は、ミナトノアート実行委員会との共催で「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」を実施
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 8 実績	—

(※6) 3/7～16 来館者への個別の聞き取り実施。「ねこ写真展」開催中のため、その感想および、展示以外の事業への希望など聞き取った。主な意見として「記念館も大佛次郎も知らなかったが『ねこ写真展』が来館のきっかけとなった」「『猫』をきっかけに来館したが、2F 展示もとてもよかった」など

ウ 使命 3 を達成するために重点的に取り組む事項

「大佛次郎×ねこ写真展」は、テーマ展示でも大佛次郎と木村荘八の愛猫家側面を取り上げた展示を行い、テーマ展示との連動を前面に出す工夫を行いました。また期間中に「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」(ミナトノアート実行委員会主催)を実施し、猫好きの方々の来館につなげました。文学に接するひとつのきっかけとして企画した鎌倉市鏑木清方記念美術館や横浜シティガイド協会と連携して実施した文学ウォーキングは好評だったため、今後も多彩な内容を検討し、実施します。

(4) 使命 4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績	
1	貸館利用率	和室	28.3%	24%	26%	—	—	30%	—
		会議室	43.4%	33%	42%	—	—	42%	—
2	入館者数	18,279 人/年	25,000 人/年	22,384 人/年	—	—	22,500 人/年	—	
3	撮影利用件数	23 件/年	10 件 以上/ 年	9 件/年	—	—	10 件 以上/ 年	—	
4	WEB 来訪者数	278,054	300,000 件 以上/ 年	286,655			300,000 件以上/ 年		

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者との意見交換等による現状把握	R 4 実績	意見交換会開催にむけた準備
		R 5 達成指標	意見交換会開催
		R 5 実績	意見交換会の準備および日程調整の実施 (※7)
		R 6 実績	—

		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	意見の検証と反映
		R 8 実績	—
2 ★	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す	R 4 実績	掲示板設置のための調査
		R 5 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 5 実績	施設利用者のためのチラシラックを設置し、情報共有を促した
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 8 実績	—
3 ★	施設の活用方法の提案	R 4 実績	施設利用例をブログや SNS で紹介
		R 5 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HP や SNS 投稿等により情報発信されている
		R 5 実績	施設利用例（※8）をブログで紹介
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HP や SNS 投稿等により情報発信されている
		R 8 実績	—

※7 2024年4月11日 ZOOM にて意見交換会実施。3団体の代表が参加

※8 紹介事例（ブログ公開日）【会議室】中国書法講習会（7/30）、【和室】投扇興（10/26）、【和室・会議室】茶道関係イベント（12/9）

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

会議室、和室の利用は、利用率、利用収入ともに好調でした。ブログ等でさまざまな利用事例を紹介するなど、利用促進を継続します。令和5年度は利用者のニーズや当館の課題など現状把握を目的とした意見交換会の準備・日程調整を行いました。

(5) 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	新規連携事業 6件	新規連携累計 3件	新規連携事業 25件	—	—	新規連携累計 7件	—
2 ★	連携する団体数の増	4団体 /年	1件以上 /年	5団体 /年	—	—	1件以上 /年	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
		達成指標	実績
1	連携したことによる関係者の声	R 4 実績	連携先との意見交換
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施
		R 5 実績	連携先アンケートの実施 (※9)
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	聞き取り調査の反映
		R 8 実績	—
2	他の文学館との意見交換等による現状把握	R 4 実績	全国文学館協議会会員間の情報共有
		R 5 達成指標	全国文学館協議会共同討議参加
		R 5 実績	神奈川近代文学館との情報交換
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	他館の事例を検討し運営に反映
		R 8 実績	—
3 ★	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている	R 4 実績	記念ボランティアの事業運営への参加
		R 5 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 5 実績	事業に関するヒアリング (※10)、事業運営への参加
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 8 実績	—

(※9) 没後 50 年記念連係事業への参加団体へのアンケート実施。参加してよかった点として、「単館では実現できなかった事業を実施できた」「新たな客層を開拓できた」等の意見があった。

(※10) 「読み聞かせ」の経験のある方に記念館での実施を想定した効果や課題等をヒアリング

ウ 使命 5 を達成するために重点的に取り組む事項

大佛次郎没後 50 年記念事業では、各方面とのネットワークを得ることができました。これからも 2024 年「鞍馬天狗誕生 100 年」、2025 年「野尻抱影生誕 140 年」、2028 年「開館 50 周年」と記念年が続くことから、没後 50 年で得た連携を活かしていきます。

(6) 使命 6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	—	—	0 件	—

2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	97%	90%	269%	—	—	90%	—
4 ★	施設の快適度についてのアンケート調査結果 / 5点満点	4.6	平均 4.0以上	4.2	—	—	平均 4.0以上	—
5 ★	施設内外の巡回点検回数	2回/ 日	2回/ 日	2回/ 日	—	—	2回/ 日	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	利用時に意見を伺う
		R 5 達成指標	ヒアリングを実施
		R 5 実績	ヒアリングを実施（※11）
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングを反映した運営
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費水準の要因分析	R 4 実績	年数回の分析と調整
		R 5 達成指標	年数回の細やかな分析
		R 5 実績	年5回（※12）の分析と調整
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	分析の継続
		R 8 実績	—

※11 3/7～16 来館者への個別の聞き取り実施。施設の清潔さや快適性について好意的な声が多かったが、「温かい便座を設置してほしい」「撮影OKとNGをもっとわかりやすく表示してほしい」など要望があった。

※12 8月末、9月末、12月末、2月（中旬と末）実施

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

- ・ 法令等にのっとりた施設の保守・点検等を着実に実行し、安全安心を確保しました。点検結果は市に報告し、不具合には早期に対応しました。
- ・ 新型コロナウイルスの影響が回復し、利用率・利用人数が上がることで、老朽化による設備不具合が現れています。所管局と連携し、設備の状態をしっかりと把握し、予防的措置、早期修繕を行います

令和5年度 「大佛次郎記念館」 収支決算書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	53,802,000		53,802,000	53,802,000	0	横浜市より
利用料金収入	1,000,000		1,000,000	1,004,800	△ 4,800	和室会議室利用料金収入
自主事業収入	2,063,000		2,063,000	2,962,300	△ 899,300	コレクション展収入・事業収入
横浜市による運営支援				0	0	物価高騰に伴う支援金、負担金
雑入	2,972,000	0	2,972,000	3,280,843	△ 308,843	
協賛金・助成金・負担金・寄附金	182,000		182,000	171,818	10,182	
シヨップ収入	1,600,000		1,600,000	1,930,980	△ 330,980	
商用撮影・特別利用料	120,000		120,000	73,660	46,340	
ティールーム竝笛設備使用料	1,070,000		1,070,000	1,072,500	△ 2,500	
その他雑収入(ゴミ処理・複写)	0		0	31,885	△ 31,885	
収入合計	59,837,000	0	59,837,000	61,049,943	△ 1,212,943	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	38,528,000	0	38,528,000	41,372,559	△ 2,844,559	
給与・賃金	31,823,000		31,823,000	33,315,881	△ 1,492,881	実配置に基づく計上
社会保険料	4,312,000		4,312,000	4,855,219	△ 543,219	実配置に基づく計上
通勤手当	1,372,000		1,372,000	1,302,704	69,296	
健康診断費	40,000		40,000	28,522	11,478	
勤労者福祉共済掛金	24,000		24,000	24,000	0	
退職給付引当金繰入額	957,000		957,000	1,846,233	△ 889,233	実配置に基づく計上
事務費	3,875,000	0	3,875,000	3,144,560	730,440	
旅費	12,000		12,000	10,786	1,214	
消耗品費	500,000		500,000	449,418	50,582	
会議賄い費	10,000		10,000	12,991	△ 2,991	
印刷製本費	800,000		800,000	322,219	477,781	WEB運営費の減
通信費	460,000		460,000	517,449	△ 57,449	
使用料及び賃借料	1,298,000	0	1,298,000	1,222,864	75,136	
横浜市への支払分	848,000		848,000	854,288	△ 6,288	目的外利用料
その他	450,000		450,000	368,576	81,424	節減による
備品購入費	150,000		150,000	143,500	6,500	
図書購入費	150,000		150,000	0	150,000	所蔵品修復(修繕費)に充当
施設賠償責任保険	40,000		40,000	53,571	△ 13,571	
職員等研修費	2,000		2,000	6,000	△ 4,000	
振込手数料	50,000		50,000	31,317	18,683	
リース料	240,000		240,000	239,292	708	
手数料	130,000		130,000	102,153	27,847	
会費等	33,000		33,000	33,000	0	会費等
事業費	2,915,000	0	2,915,000	3,243,452	△ 328,452	
自主事業費	2,915,000		2,915,000	3,243,452	△ 328,452	没後50年記念事業ほか
管理費	7,813,000	0	7,813,000	8,145,357	△ 332,357	
光熱水費	2,905,000	0	2,905,000	2,012,258	892,742	当初の高騰見込による
電気料金	2,600,000		2,600,000	1,801,218	798,782	
ガス料金	0		0	0	0	
水道料金	305,000		305,000	211,040	93,960	
清掃費	2,600,000		2,600,000	2,472,360	127,640	
修繕費	900,000		900,000	2,424,659	△ 1,524,659	小破修繕の発生と予防修繕
機械警備費	256,000		256,000	256,080	△ 80	
設備保全費	1,152,000	0	1,152,000	980,000	172,000	
空調衛生設備保守	273,000		273,000	219,400	53,600	
消防設備保守	154,000		154,000	154,000	0	
電気設備保守	150,000		150,000	149,820	180	
防塵・防微作業委託費	300,000		300,000	307,780	△ 7,780	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	275,000		275,000	149,000	126,000	修繕費に充当
共益費			0	0	0	
公租公課	3,568,000	0	3,568,000	3,349,821	218,179	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	3,566,000		3,566,000	3,347,171	218,829	
印紙税	2,000		2,000	2,650	△ 650	
その他()	0		0	0	0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	3,138,000	0	3,138,000	3,138,000	0	
本部分	3,138,000		3,138,000	3,138,000	0	
当該施設分	0		0	0	0	
支出合計	59,837,000	0	59,837,000	62,393,749	△ 2,556,749	財団職員の人事異動により、予算より2,267,000円職員人件費が増加している分を含んでいる。そのため実質的な収支差額は、923,194円である。
差引	0	0	0	△ 1,343,806	1,343,806	